

超強靱防災シェルターのご案内

東日本大震災から6年目の今年3月10日、岩手県陸前高田市に防災シェルター0号機(試作)が設置されました。< 同日、テレビ岩手の夕方のニュースで報道 > 同市を襲った巨大津波の衝撃にも耐え得る強度を目指したもので、国土交通省の平成28年度まちづくりモデル構築支援事業に採択された提案と連動し、被災地から新しい防災事業のあり方を全国へ発信するプロジェクトの第一歩と位置付けられています。



この防災シェルターは、身内や友人の多くを震災で亡くした技術者が6年越しで開発しました。「これが有ったら死なずに済んだ」という思いの下、ハニカム構造を駆使して軽量ながら今までにない高強度を実現しています。

東日本大震災では、岩手、宮城、福島で250人以上の地元消防団員が、救助活動の最中、津波にのみ込まれて亡くなりましたが、遺族への弔慰金は2800万円に満たないものでした。満足とは言えない装備で、地元のために奮闘する消防団員の数は全国で年々激減しています。彼らの「盾」となり、最後の砦になるものを……。これが防災シェルター開発の動機でした。自立電源確保のための太陽光発電と蓄電池が装備されており、災害時の緊急避難のみならず、普段は、防災備品の貯蔵や充電用施設としての利用を想定しています。

今後更に想定外の強度を実証しながら製作コストの低減化を図り、10人用では3000万円台での全国販売を予定しています。また、法人用のみならず、1人用、家庭用の開発も視野に入れており、どんな状況に備えて、シェルターをどこに置き、どう使うか、具体的なニーズに合わせて仕様も変わります。まずは、広く皆様のご意見、ご要望などをお聞きしたいと考えております。尚、0号機が設置されている現地、陸前高田市の見学についてもご相談下さい。

※ 国交省HPに陸前高田の構想が公表されています。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000119.html

提案者である社団法人 持続可能な地域社会づくりイノベーション研究所は、共同提案者である陸前高田市や弊社と協働して、自治体、企業・団体へ働きかけを行っています。まずは、国交省を中心とした支援を受けつつも、民需を含めた防災シェルターの普及には、民間の企業ベースで取り組んで参ります。

株式会社 サンエイワーク

〒102-0084 東京都千代田区二番町 14 番地

日テレ麹町ビル南館 3F

TEL: 03-3239-6778 FAX: 03-3239-1168

<http://www.saneiwork.co.jp/index.htm>